

高等学校美術科学習指導案

1. 題材名 みる、つくる、ちかづく

2. 題材作品 アルベルト・ジャコメッティ 《ヤナイハラ I》 1960-61 年
 ブロンズ H43.2cm × W29.2cm × D12.7cm 国立国際美術館蔵

3. 実施学年 第1学年

4. 学習指導要領との関連

3内容 B鑑賞 (1) 鑑賞 ア (ア)

(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。

5. 題材の概要

アルベルト・ジャコメッティの作品のうち、矢内原伊作をモデルとして制作されたスケッチ (図版)、油彩 (図版)、彫刻 (図版、及び実物ブロンズ像) を鑑賞し、作者の表現手法や、意図、心情を読み取る。

- ・ 4回の短時間クロッキーを透明な基底材に行い、重ねて鑑賞することで、毎回の変化に気づき「繰り返し見て、つくる」ことを疑似的に体験する。
- ・ アルベルト・ジャコメッティの油彩を図版で鑑賞し、それぞれの手法での共通点について考え、作者の制作の特徴を意識する。
- ・ 美術館で《ヤナイハラ I》を鑑賞し、より詳細に観察し、制作手法について考察し、ワークシートに記入する。
- ・ 学芸員より、ジャコメッティと矢内原、および、《ヤナイハラ I》についての解説を聞く。
- ・ 再度《ヤナイハラ I》を鑑賞し、ジャコメッティが目ざした表現や、作者の心情について考える。

6. 題材目標

- ・ 《ヤナイハラ I》の鑑賞を通じて、ジャコメッティの心情や意図、表現の工夫について考え、対象の本質を表現しようとする
ことの意味を考える。
- ・ 表現することに興味関心を持つことができる。

7. 準備物

指導者 : B5クリアファイル (綴部を切断し2枚に分けたもの生徒数×4枚) ・油性ペン (生徒数分) ・図版データ (ジャコメッティの平面作品《ヤナイハラ Iの胸像》)、ワークシート

生徒 : 筆記用具

8. 授業展開 (所要時間190分)

	場所・時間	学習活動	指導内容および留意点
事前の活動 (学校)	学校 計40分 事前に分割して行う	<ul style="list-style-type: none"> ペアを組み、クロッキー（5分/一人×2回×4週）を行う。 お互いの正面からの顔をクリアファイルに油性ペンでクロッキーする。 	<p>4回共通の指示</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアを固定する。 顔をメインに顔がわかる向きで描く。 モデルはまっすぐに椅子に座る。 <p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別な指示なし。 <p>第2回、第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> まず、1分間モデルを観察し、前回のクロッキーも参考にしながら、前回からのモデルの変化を探るように指示する。 その後クロッキーを行う。 <p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> 「その人らしさ」が一番出ている顔の向きでクロッキーする。 <ul style="list-style-type: none"> 修正する時は消すのではなく描き足すように指示。 「鼻が二重になっても良い」 「上手く描かなくても良い」など声掛け。 描き終わったらマスキングテープに作者と日付を書き貼っておく。
	学校 5分	<ul style="list-style-type: none"> 4枚のクロッキーを自由に並べたり、重ねたりして短時間で個人鑑賞する。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのクロッキーの変化や違いに注目するよう声かけを行う。
	学校 10分	<ul style="list-style-type: none"> 教員の説明を聞く。 5分間、ジャコメッティの平面作品を自由に鑑賞する。 ワークシート①1.に鑑賞の感想などを書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> 「次回の授業は校外学習で美術館に作品を見に行く。」と生徒に伝える。 「そこで、鑑賞する作品の作家の平面作品を見てみよう」と説明する。 ● ワークシート①を配布 プロジェクターでジャコメッティの平面作品を大きく映す。 5分間鑑賞を行うように指示。 鑑賞時のルールを伝える。 静かにじっくり鑑賞する。 発言は挙手して発言する事 他人の意見をよく聞く 他人の意見を聞いて考えが変わっても良い。
学校 (一時間)	学校 35分	<ul style="list-style-type: none"> 自分のクロッキー4枚を重ねて、ホッチキスで上部2カ所を留め、自由に鑑賞する。(3分間) 	<ul style="list-style-type: none"> 「ジャコメッティの平面作品に2重になっているような線の部分がある。同じように、みんなのクロッキーを日付順(最新のものを上)に重ねてみよう。」と発話。 重ねた後にクロッキーを自由に鑑賞するように指示。

		<p>自分のクロッキーとジャコメッティの平面作品を見比べて、共通点を探し、ワークシート①の2. に書き込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 共通点について意見を共有する。 教員の話聞き、ジャコメッティの立体作品がどんな作品か考え、ワークシート①の3. に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ジャコメッティの平面作品の画像をプロジェクターで映しておく。 2, 3人が挙手発表し、他に無いか、さらに2, 3人に聞く。 おおよそ全体が感じたことを共有できれば良い。 美術館で、同じ人をモデルに制作した立体作品を鑑賞することを伝え、その作品がどんなものか予想しておくように促す。
美術館での活動	美術館講堂 10分	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシート①、及び自分の描いたクロッキーを持参する。 集合する。 学芸員の方に美術館の利用についての説明を受ける。 鑑賞に必要な荷物を置く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 開始時にワークシート②を配布。
	美術館展示室 25分 (移動5分)	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート①、②を持って全員で鑑賞を行う。 学校での活動も思い出しながら鑑賞し、ワークシート②の1. (1)、(2) に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> (40人学級の場合) 20人1グループで10分鑑賞。鑑賞時は様々な角度からじっくり見るように声かけ。 「予想していた《ヤナイハラI》とイメージが違うか?」との声かけを行う。 ワークシート①の3. を参照するように指示
	美術館講堂 5分	<ul style="list-style-type: none"> グループでワークシート②の内容について意見交換し、ワークシート②の1. (3) に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループは5人1班程度 生徒各自の感想をグループで共有する。
	美術館講堂 20分 (移動5分)	<ul style="list-style-type: none"> 美術館の学芸員より、モデルの矢内原伊作について、矢内原とジャコメッティの関係、《ヤナイハラI》についての解説を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 《ヤナイハラI》の制作期間やジャコメッティと矢内原の関係、制作スタイル、「細くなっていく、小さくなって形が無くなっていく」等のエピソードを聞く。
	美術館展示室 20分	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート②と自分の描いたクロッキーを持って個人鑑賞を行う。 ワークシート②の2. (1)、(2) に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 正面だけでなく様々な角度からじっくり見るように声かけ。
	美術館講堂 20分	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート②の2. (2) について、意見交換し、(3) に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意見に対して、どのようなところからそう感じたのか、など生徒の考えを掘り下げる。 同じ部分をヒントにして、異なる考えを持った生徒がいるか、など、より多様な意見が出るように促す。 平面作品だけでなく、立体作品についても、また、写実的でない作品でも、しっかり観察して対象の本質をとらえることが大事である、とまとめる。